

第 1 報告書

第 1-1 作成

- (1) 小学校卒業見込者については、志願者が在学している小学校の教職員が記載者となる。
- (2) 記載者以外の複数の教職員が小学校児童指導要録等と照合し、確認する。
- (3) 小学校長は、次のアからウまでのいずれかに該当する場合、報告書の一部を作成しなくてもよい。

ア 令和 5 年 4 月 1 日以降帰国し、現地校から編入学した者については、報告書の所定の欄のうち記入できる事項についてのみ記入する。各教科の学習の記録欄への記入又は現地校の成績資料の写しの添付が不可能な場合は、記入できない欄についてその旨を明らかにした理由書（様式任意）を提出する。

イ 小学校の、全ての教科を特別な教育課程により実施している特別支援学級（固定）在籍者については、報告書の所定の欄のうち記入できる事項のみ記入し、記入できない欄については斜線を引く。この場合、不足する記録に関わる資料の写しを提出する。

ウ 出席日数が少ないため、参考にしてできる資料等を活用しても評価を行うことができない教科がある場合、報告書の所定の欄のうち記入できる事項についてのみ記入する。

この場合、小学校長は記入できない欄についてその旨を明らかにした理由書（様式任意）を提出する。

- (4) 当該小学校長は、前記（1）から（3）までを確認の後、公印を押し内容を証明する。

第 1-2 記載事項

報告書には、次の事項を記載する。

- (1) 学籍の記録
- (2) 各教科の学習の記録
- (3) 特別活動の記録
- (4) 総合的な学習の時間の記録

第 1-3 作成方法

報告書は所定の用紙（様式 2）により作成する。前年度以前の報告書の様式は使用できない。報告書の作成に当たっては、原則として小学校児童指導要録の記入方法に従うものとする。

報告書の各欄の記入については、次の（1）から（4）までのとおりとする。なお、第 4 学年、第 5 学年については、小学校児童指導要録に基づいて記入し、第 6 学年については、第一学期及び第二学期の評価等を十分参考にして令和 7 年第二学期末現在における児童の評価等を記入する。記入後、当該小学校長は公印を押す。

- (1) 学籍の記録

ア 児童氏名、性別、生年月日、卒業見込年月を記入する。

イ 小学校に転入学又は編入学した志願者については、転入学等の欄に転入学等の年月及び前在学校名を記入する。

- (2) 各教科の学習の記録

各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領（平成 29 年文部科学省告示第 63 号）に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、3、2、1 の 3 段階で評定を記入する。この場合、「十分満足できる状況と判断されるもの」を 3、「おおむね満足できる状況と判断されるもの」を 2、「努力を要する状況と判断されるもの」を 1 とする。

- (3) 特別活動の記録

第 6 学年の特別活動における児童の活動について、内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

(4) 総合的な学習の時間の記録

小学校学習指導要領に示された目標に基づき、第6学年のこの時間に行った学習活動及び各学校が定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点について、児童の学習状況の特徴的な事項を記入するなど、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。